

〈講義カテゴリー〉	〈講義題目〉(担当者)
I 群 言語学入門	→ 言語学入門 (長屋 尚典)
言語学概論	
言語学史	
II 群 音声学	→ 音声学 A/B (斎藤 純男)
音韻論	→ 日英語音韻論 (窪園 晴夫)
形態論・語形成論	
統語論	
意味論	
語用論	→ 語用論の基礎 (酒井 智宏)
III 群 生成文法入門	→ 生成文法 I A/B (今西 典子)
生成文法	→ 生成文法 II (高橋 将一)
IV 群 認知言語学入門	→ 認知言語学 I (西村 義樹)
認知言語学	→ 認知言語学 II A/B (池上 嘉彦)
V 群 社会言語学	→ 社会言語学 (嶋田 珠巳)
史的言語学	→ 歴史的にみた日本語 (川村 大)
言語心理学	→ 第一言語獲得 (佐野 哲也)
日本語文法理論	→ 文と述語/日本語の叙法組織 (尾上 圭介)
言語学特殊講義	→ 現代言語学からみたレトリック (森 雄一)
	→ 言語哲学 (峯島 宏次)
	→ 実験言語学入門 (川原 繁人)
言語学特殊研究	→ 文法原論 A/B (梶田 優)

理論言語学講座は、2017年度も、広い研究領域について、数多くの課目を開講し、受講者の皆さんの要請に応えたいと考えております。これらの課目の詳細は担当講師による概要をお読みいただくとして、ここでは理論言語学講座全体について鳥瞰いたします。

左の表のⅠ～Ⅴ群の区別は、東京言語研究所が定めた言語学のカテゴリー区分です。まず、言語学を学んだことのない方は、「言語学入門」の履修を勧めます。Ⅱ群の課目は、理論言語学の基礎課目です。「音声学」では、音声の多様性とその後にある仕組みを説明しますが、さらに多様な音声を発音する練習も行います。「日英語音韻論」は、日本語と英語の音韻構造の異同を考察いたします。「語用論の基礎」は、言語の使用面を扱う分野が言語学のなかでどのように位置づけられているかを説明いたします。

現代の理論言語学には生成文法と認知言語学という二大潮流があります。「生成文法Ⅰ」は生成文法の基本的な考え方を説明いたします。「生成文法Ⅱ」は、移動現象を手掛にして言語の構造を考察いたします。「認知言語学Ⅰ 認知文法とは何か?」は、言語学の根本問題である<文法と意味の関係>を認知文法の立場から説明いたします。「認知言語学Ⅱ」は、日本語の文法・語法の問題を取り上げ、<日本語らしさ>を考えます。

Ⅴ群に属する講座として2017年度は8個の講座を用意いたしました。「社会言語学」は、「社会」は言語理論にどのように組み込むことが可能かという問題を考えます。「歴史的にみた日本語」は、音韻・語彙・文法にわたる日本語史上の話題を取り上げます。「第一言語獲得」は、ヒトが第一言語を容易に獲得できるのはなぜかという問題を扱います。「文と述語/日本語の叙法組織」は文に述語があるのはなぜか、叙法形式はどのような組織を成しているかを説明いたします。「現代言語学からみたレトリック」は、認知言語学の観点からレトリック現象のメカニズムを考察いたします。「言語哲学」では、言語学・哲学・論理学が交差する分野の問題を、自然言語の具体例の分析を通して学びます。「実験言語学入門」は、実験的手法を用いて確率論的な言語知識をモデル化する試みを紹介いたします。「文法原論」では、現行の静態的・出力的的な言語理論では不十分で、動態的・過程的的な文法観が必要であることを論じます。

このように、理論言語学講座には多様な講座が用意されていますので、受講生の皆さんは、できるだけ幅広く、さまざまな課目を計画的に受講していただきたいと思っております。

(運営委員長 西山 佑司)